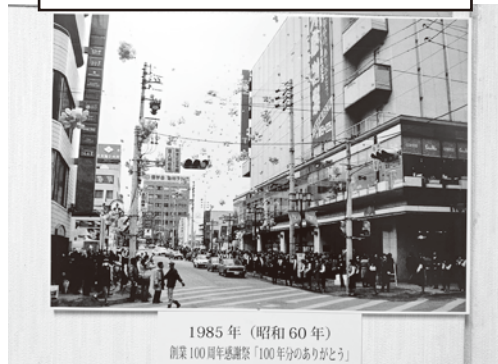




井上駅前本店で開催していた
パネル展の様子



1985 年 (昭和 60 年)
創業 100 周年感謝祭「100 年分のありがとう」

12 月、中心市街地の街路灯を装飾したのはクリスマスのイルミネーションではなく、「ありがとう松本PARCO」のフラッグ。例年ならば年末商戦で盛り上がる時期だが、

どうする松本3! “さよなら井上” “さよならパルコ”



開業当初は松本初となる都市型ホテルチェーンの東急インが入居し、北アルプスの展望を楽しめる最上階のレストランは人気のスポットだった。間もなく解体されるとのことだが、隣接する建物もいずれも築50年前後であるから、場所柄再開発の機運も高まるのかもしれない。向かい

ヨーカードー南松本店、井上本店と一度きりの閉店セールがかつてない賑わいとなった。そんな中、松本駅前では昭和52年開業のスピカビルが閉館した。



令和7年1月1日現在

世帯数	: 854世帯
人口	: 1483人
男	: 707人
女	: 776人

教師や公務員が若者に希望を聞くと自習室のような回答が多く、実際に市立博物館にはそうしたスペースが設けられ利用されているが、県内で最も若者の人口が多い都市にもかかわらずこの街に不足しているのは、それなりの都市の街なかには必ずあるようなボウリング場にカラオケやゲームセンターを併設したようなレジャー施設だったりする。デートや友人と意味なく

にあるJRの駅ビルも撤退したテナントの後がところどころ埋まらず、観光都市の玄関口としては恥ずかしい状況が続いている。

2月末に松本パルコが、3月には井上が閉店して、大型空き店舗が散見されるようになる。街の風景もだいぶ変わるのだろう。

昨秋開業したJR村井駅舎には待合・学習スペースや図書館サービスポイントが整備され、高校生など若者の利用が好調だと聞く。松本パルコの後利用に関しても、昨年の市長選までは若者や子育て世代の利用を想定した図書館など公的な複合施設が検討されていたが、再選後計画が白紙となったさき進展が見えない。



パルコ・井上が
ある景色



まちかどフォト

最近映画館では映画の上映時間を消費できるスペースは図書館ではなく、おしゃれな公園であり、パルコであり、娯楽施設なのだ。歌舞伎町の「トー横」のような空間という、品行方正な大人は犯罪の温床と眉をひそめるかもしれないが、本来若者のたまり場とはそういうものなのだ。だから若者が集まるし、それを目当てに(悪い)大人も集まってくる。殺菌された無菌空間では丈夫で元気な子供は育たない。

最近映画館では映画の上映だけでなく、大型のスクリーンと音響設備を活かしたコンサートやスポーツの配信イベントが人気である。松本には松本山雅FCやOMFといったパブリックビューイング向けのコンテンツも豊富にあるのだからクラフトイベントにも活用できるような多目的ホールを核にして街づくりを構想してみるのも一案だろう。本当に市民が求める魅力的な都市空間についてゼロベースで考える絶好のチャンスがやってきた。

令和6年度 第一地区もちつき大会開催!



第一地区公民館は12月14日土曜日、Mウイングで恒例のもちつき大会を開きました。地区在住の親子やスタッフなど59人が参加し、もちつきや正月遊びを楽しみ、つきたてのもちや豚汁に舌鼓を打ちました。

支度を済ませた参加者は、Mウイング1階のエスカレーター下スペースに集合。蒸したてのもち米3・8kgを臼に移すと、大人が順番にこねたあと、大きな杵でつきました。ある程度もち米がつぶれてきたところで、いよいよ子どもたちの出番です。就園まえの幼い子から小学6年生まで、交代しながら「よいしょ」のかけ声に合わせて、一生懸命につきました。

もちをつき終わると、今度は会場を3階に移し、正月遊びに挑戦しました。こま回しや皿回し、お手玉、絵合わせなど日本古来の遊びのほかアフリカのおはじきを使ったゲームなど、中信レクリエーション協会会員に教わりながら、親子で夢中になって遊んでいました。

▲背丈と同じくらいの長さの杵を元気に振り下ろす子どもたち

参加者は正月前の冬のひと時を一緒に楽しみ、笑顔あふれる催しとなりました。

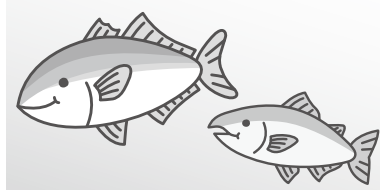
参加者は正月前の冬のひと時を一緒に楽しみ、笑顔あふれる催しとなりました。



▲つきたてのもちを味わう参加者

近年、家庭でこういった習慣が少なくなってきたのはちょっと寂しい気がします。

近年、家庭でこういった習慣が少なくなってきたのはちょっと寂しい気がします。



▲皿回しに挑戦!

▼鮭と鰯

年取り魚の習慣は海から離れた地域に多く、傾向としては西日本が鰯、東日本が鮭で、松本地域は、その境界線に位置し、鰯と鮭の習慣が混在しているようです。年取りには、普段と違う贅沢をするのですが、海辺の人達には鰯でも鮭でも普段の食品なので、あえて正月にお膳に載せることもなかったようです。

江戸期、松本藩が將軍家に献上した品に、鮭がありましたが、松本には近代的ダムが作られる前までは鮭が遡上してきており、最後の鮭が女鳥羽川で捕獲されたのは昭和11年だったとのこと。

年取り魚としての鰯は、主に富山から野麦峠を越えて運ばれ、松本から諏訪や南信地域に売りさばかれていたとのこと。

近年、家庭でこういった習慣が少なくなってきたのはちょっと寂しい気がします。

電車通り